

「放課後供教室」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

令和2年度から気仙沼市立月立小学校で実施している。保護者、地域住民等で組織された「月立小学校スクールサポータースタッフこだま隊」の参画を得て、学びを通じた地域コミュニティづくりを目指し、地域全体で子どもを育てる体制づくりに努めている。実施校の全児童が利用申請・登録している。



内容

- ・放課後において、児童の学習活動の支援（宿題や自主学習の補助）や交流活動（バルーンアート、折り紙や工作活動等）、スポーツ活動を週1回以上の頻度で開催した。
- ・長期休業中には、地区内の公会堂や集会所で開催した。また、外部団体に出前講話を依頼し、実施した。
- ・震災遺構伝承館で高校生語り部からの体験学習やジュニア・リーダーとの交流会を企画したが、新型コロナウイルス感染症の急拡大により実施できなかった。



ポイント

全児童と保護者・地域住民参加型の持続可能な取組と
地域の文化施設を有効利用した防災学習の推進
ジュニア・リーダーとの交流を通じた異年齢集団との交流活動

成果

活動に際しては、申請登録した児童の7割以上が参加している。活動スタッフについても常時3～5人が配置されており、充実した支援活動を行えている。子供教室を実施したことにより、世代間の交流やつながりが増えたこと、地区内の集会所等で開催したことにより、地域住民の参画も増え、地域活性化につながっている。

| 延べ 実施回数 | 延べ 利用人数 |
|------------|------------|
| 30回 | 461人 |

今後の方向性

- ・児童や保護者への認知も広がり、需要が高まっていると考えられるため、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、継続して実施する方向で考えている。
- ・被災地域に住む地域住民の一人として、震災遺構伝承館の見学や地域住民との対話などによる防災学習を積極的に取り入れることで、地域とのつながりを広めながら地域復興の担い手としての人材育成に努めていきたい。

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県 多賀城市)

取組の概要や経緯

【放課後子ども教室】

平成20年度より事業を開始し、震災の影響で平成23年度に一時休止したが、平成23年7月より事業を再開した。放課後等に子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域住民の方々の参画を得て、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。

内容

- ・活動日時…授業終了後から午後4時30分まで
- ・活動内容…学習(宿題や自主学習)、スポーツ、卓上ゲーム、季節に応じたものづくり等
- ・イベント…放課後子供教室体験会(勾玉づくり・スポーツ・ダンボール工作)



ポイント

- ・保護者がいつでも放課後子供教室に登録できるように、今年度より電子申請での登録を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学年を分けるなどの対応を講じ、学校の状況を踏まえながら開催できた。
- ・児童の自由遊びの見守りだけでなく、多様な体験活動を提供した。
- ・わくわく通信を年に2回発行し、教職員や保護者の皆様に活動の様子を伝えている。

成果

・今年度は、1年半ぶりの活動再開となるため、開催に向けてスタッフ会議を重ねながら新型コロナウイルス感染拡大予防、多様な体験活動の提供のための運営会議や事前準備を行い、1つ1つ確認しながら開催することができたのは、大きな成果だと考える。



今後の方向性

・児童に多様な学びや体験を提供できるよう、地域住民とのネットワーク(地域学校協働本部との連携)を広げ、協力体制を整えていく。

・今後もコロナ禍での活動が考えられることから、従事するスタッフの体調や消毒作業など感染対策を講じながら、年間通して開催できるように学校及びスタッフとの打合せを実施し、より活動の充実を図る。



「放課後子ども教室」(宮城県丸森町)

取組の概要や経緯

放課後に学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全安心な活動の拠点を設け、地域ボランティアの方々との交流活動を通して、自主的な学習や児童相互の遊びを主とする体験活動を実施し、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。

内容

- 1年を通して授業がある日の放課後に開設。
- 放課後に家庭が留守となる児童を対象。
- 活動内容：自主学習（宿題等）の取り組み／読み聞かせ／読書／自由遊び ほか

| 放課後子ども教室名 | 開設日 | 開設時間 |
|-----------|--------------|-------------|
| 筆っ子クラブ | 授業のある平日(月～金) | 16:00～18:00 |
| ころたけクラブ | | |

ポイント

地域の安全管理員の見守りにより、温かい雰囲気の中で活動している。
各教室毎にルールと活動内容を決め、子どもたちが自らが考える機会を設けることで、主体性を持ちながら節度ある行動に繋げていけるよう、工夫して取り組んでいる。

成果

家庭や学校とは違う環境のもと、年の違う子どもたちが一緒に活動することで、互いを思いやることを学ぶことができた。特に、上級生が下級生の面倒を見ることは、リーダーとしての自覚が芽生え、社会性や協調性が育まれるなど総合的な成長に寄与している。



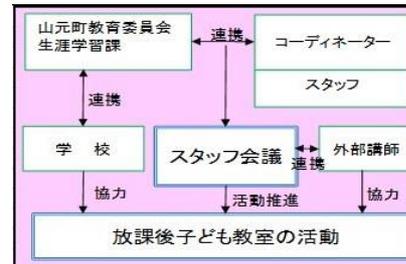
今後の方向性

令和4年度に小学校が再編されることに伴い、令和3年度で放課後子ども教室は終了となる。
放課後の子どもの過ごし方については、再編後の小学校に設置している放課後児童クラブを利用することができる。

「山元町放課後子ども教室推進事業」(宮城県 山元町)

取組の概要や経緯

学校の余裕教室や周辺施設を活用しながら、放課後の子供たちの活動を地域住民が見守ることにより、異年齢の交流を生み出す**地域住民の一体となったコミュニティの確立を推進**する。また、子供たちが地域の大人と様々な体験をしながら、**心豊かでたくましい人間形成**を図り、地域の担い手づくりにつなげていく。



スポーツ推進委員によるニュースポーツ教室

内容

- **はまっこキッズ**(主な活動場所:山元町立坂元小学校)
 - ・ 毎週金曜日の14:30~16:00に、坂元小学校児童を対象として活動を進める。
- **みやまっこクラブ**(主な活動場所:山元町立山下第一小学校)
 - ・ 毎週月曜日の14:30~16:00に、山下小学校・山下第一小学校・山下第二小学校児童を対象として活動を進める。
- ◎ 両教室とも**年間30回程度実施**している。
- ◎ コーディネーターを中心としたスタッフ会議で活動計画を立案し活動を実践している。
- ◎ 主な活動内容として、スタッフ間での創意工夫をしての活動のほか、地域住民を講師に迎え、ニュースポーツ、ものづくり体験、震災遺構中浜小学校見学、手作り遊び体験、民話・昔遊び体験、りんご狩り体験などを実施している。



震災遺構中浜小学校見学

ポイント

- ① コーディネーター、スタッフが**創意工夫**をしながらバリエーションに富んだ活動を企画している。
- ② 地域の産業、伝統芸能、サークル活動などの**地域素材にふれ、体験する活動を実施**している。
- ③ 両教室間での情報共有、合同研修、相互見学など、**教室間の協力体制**を築いている。
- ④ 子供から大人までの異年齢の関わりにつながる**地域コミュニティづくりの一助**となっている。

成果

- 放課後の子供の安全・安心な居場所づくりとなっており、様々な活動に**意欲的に取り組む様子**が多く見られる。
- 児童の満足感がスタッフに伝わることで、**スタッフのやりがいと次の活動への意欲**の高まりにつながっている。
- 地域素材や地域人材による体験的な活動を積極的に設定することにより、**児童にとっての貴重な経験**となっている。
- 活動を重ねることで、異学年交流・世代間交流が広がりを生み、**地域コミュニティづくりや次世代の担い手になる意欲**へとつながっている。

今後の方向性

- 児童数が年々減少していることもあり、登録児童も減少傾向にある。また、上学年児童は6時間授業のために参加することが難しい日もあるのが現状である。学校と調整しながらより良い在り方を探っていく。
- みやまっこクラブは町内三つの小学校を参加対象としており、距離の面から保護者の送迎が必要である児童もいる。多くの児童が参加しやすい実施曜日の検討をしながら、児童の移動手段の検討をしていく。

「令和3年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業(おながわ放課後楽校)」(女川町)

取組の概要や経緯

児童は、幼児期に被災を経験し、震災後の生活課題や人間関係、家庭環境の変化への対応が不十分で、基本的な生活や学習習慣、コミュニケーション能力が身に付いていない児童が依然として多い状況にある。また、放課後の過ごし方に課題が見られる児童も多い。このような児童に対して、学校を核として、地域住民を講師等に活用しながら、児童が安全・安心な放課後の時間をゆったりとした気持ちで過ごせる居場所づくりを推進し、児童の心のケアや豊かな人間性と社会性を育てることを目的に本事業がスタートした。

内容

生涯学習課が、学校や地域住民等との連絡・企画調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある講座を提供し、放課後の活動を充実させている。特に、本事業の特徴は、児童が主体的に宿題や外遊び、体験講座等を選択できることである。また、各講座は、児童の実態を把握し、検証員会で共通理解を図り実施している。昨今の課題でもある体力の低下と学力向上に特化した講座も開講している。

ポイント

本事業は、本課だけで実施することができない取組なので、NPO法人女川向学館や健康福祉課等との連携で成り立っている。また、各講座には、講座を担当する多数の講師たちにも自分事と捉えていただき、綿密な打ち合わせを行っている。

成果

60人程度で始まった講座が12月にはいると、全校児童の57%に当たる117名の申込みとなった。参加している児童の感想から「放課後楽校があるから学校に来る」や「いろいろな体験ができて楽しい」があった。児童が登校する意欲につながっていることがわかった。また、様々な出展に挑戦する講座も開講しており、「はがき筆文字展チャレンジ体験」は、準大賞に選ばれた。準大賞に選ばれた児童は、学校生活に自信が湧き、教育活動に積極的に取り組むようになった。このことから本事業は、児童の意欲につながる取組であることが分かった。



今後の方向性

本事業を長期的に運営するためには、人員の増員が必要であると考えている。今後は、近隣に住むお年寄りが児童と関わり活動したり、保護者が学習の補助をしたりする構想を練っている。地域の方々が町内の児童に関心を持つことで学校を核とした地域力の強化が期待できる。そのためにも、放課後の貴重な時間を有効活用し、地域を繋げる生涯学習の充実を図りたい。

「令和3年度女川町放課後の子供の居場所づくり事業(まなびっこ)」(女川町)

取組の概要や経緯

地域のどの子供にも、生涯学習につながる学びや体験を社会教育施設や集会所等を活用し機会を提供する。また、子供達が自主的・主体的に学習及び体験を選択することにより、自ら学ぶ向上心を養い、他とのかかわりや学び合いにより、生涯にわたり学び続ける力の土台を養いながら、未来の地域のリーダーとしての資質の素地を養うことをねらいとして実施している。

内容

季節に合わせて年間4回講座と特別講座1回を開講している。講座は下記のとおりです。

まなびっこ春…粘土づくり工房、花づくり工房、染め物工房、女川子供映画教室

まなびっこ特別版…海の体験活動(①鳴り砂(清掃)体験 ②浜辺遊び(ジャンボ輪投げ)体験 ③竹いかだ体験)

まなびっこ夏…グランドゴルフを楽しもう、ペタンクを楽しもう、竹で水でつぼうを作って遊ぼう、女川子供映画教室

まなびっこ秋…身体表現系コース(ダンス)、科学実験系コース(おもしろ実験)、食物系コース(クッキング)

まなびっこ冬…キッズヨガ体感コース、たった一つだけの体感コース、スーパーシェフ体感コース、冬休み子供映画劇場
子供たちは、それぞれの講座から選択して学習や体験を行う。

ポイント

- ①地域人材を活用し、子供と関りながら地域活性を目指す。
- ②女川町児童クラブと連携し、学びを提供する。
- ③沢山の講座を設けることで、子供他たちが興味関心が高い学びや体験にチャレンジできる。
- ④子供たちは、社会教育施設や集会所を会場に実施するため、施設利用が慣れており、将来の活動場所につながる。

成果

様々な環境に置かれている子供たちが対象となっているので、体験したことが今年一番の思い出になる子供もいる。また、まなびっこで体験したダンスを専門的に学び始めた子供もいる。このことから、本事業は、生涯学習の素地を構築する良い機会となっている。また、地域住民と交流することで、地域の活性化の一助となっている。

今後の方向性

今後も、地域と子供たちを積極的につなげる活動を推奨すると同時に子供たちが故郷の良さを再認識し、女川町の未来を気付く人材として育ていく講座とする。

